

1. 趣旨

当施設は、森に囲まれた施設であり、様々な動物や野鳥などを観察することができる。森は私たち人間のみならず、多くの生き物の暮らしを支えている。そこで、森での体験をするとともに森の役割や大切さを知り、資源としての木の有用性について学ぶ機会とする。森林 ESD を通して次代を担う子どもたちを対象とした事業を実施する。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和5年9月2日(土)～9月3日(日)

(2)参加者 28名

(3)日 程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9/2 (土)					受付	開 会 式	森 で の ゲ ー ム	昼 食	樹木の観察 香り成分の抽出 香料スプレーづくり	荷 物 移 動	丸 太 切 り 体 験	夕 べ の つ ど い	夕 食	焚 き 火 木 に つ い て 考 え る	入 浴	就 寝 準 備	就 寝
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9/3 (日)	起 床	早 朝 散 歩 野 鳥 観 察 野 生 動 物 観 察	朝 ご は ん づ く り	清 掃 荷 物 整 理		木 の 手 紙 を 書 こ う !!	昼 食	閉 会 式	解 散								

3. 企画運営のポイント

- ・事業全体を通して、「資源としての木と、その有用性」を意識したプログラム作りをした。
- ・今までは森に親しむことを意識して野外での活動や楽しめるような体験を重視してきたが、今回は「焚火」の際に、地球温暖化とそれを防ぐための森や木の役割のような話を加える等、木について深く考えたり学んだりできるプログラムを入れるよう心掛けた。
- ・当施設での特徴である「ログハウスでの宿泊」を一つのプログラムとなるよう、ログハウスでの生活をふりかかためるためのワークシートを作成し実施した。

4. 参加者の声（一部抜粋）

- ・ ふだん森のなかを歩いても気づけないことがよく気づけた。（野外でビンゴ）
- ・ このゲームできんちよう感がなくなっていいと思った。楽しかった。（野外でビンゴ）
- ・ リースなどをつくったり、思い出作りになってよかった。リースを作るのが楽しかった（樹木スプレーづくり）。
- ・ 木にもおいがあるんだなと思った（樹木スプレーづくり）。
- ・ ノコギリを使うのは初めてだけど、かんたんだった（丸太切り体験）
- ・ むずかしかったけれど、はんのみんなと協力できてよかった（丸太切り体験）
- ・ 木は水と二酸化炭素をすって、地球温暖化をふせげるといことがわかった（焚き火）
- ・ スウェーデントーチのやり方がきれいだった（焚き火）。
- ・ いろんな動物のあしあとや、よるの動物のこうどうをみれてよかった（朝の散歩・夜の動物の映像鑑賞）。
- ・ シカは人がある所をふつうにあるのが不思議だと思いました（朝の散歩・夜の動物の映像鑑賞）。
- ・ 私たちが歩いた道にこんなに色々な動物がいてびっくりした（朝の散歩・夜の動物の映像鑑賞）。
- ・ ヒノキの木のハガキだと知っておどろいたんですけど、線が入っていて書きづらかったです（ひのきのハガキづくり）。
- ・ おとうさんとおかあさんに手がみをかくのはたのしかったし、木なのがすごいと思いました（ひのきのハガキづくり）。

5. 事業中の様子

【野外でビンゴ】



【野外でビンゴ】



【樹木巡り】



【香料スプレーづくり】



【丸太切り】



【焚き火】



【朝の散歩】



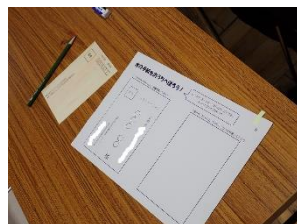
【夜の動物映像鑑賞】



【朝食（ホットサンドづくり）】



【木のハガキづくり】



【木のハガキづくり】



【記念撮影・全体写真】



6. 成果と課題

(1)アンケート結果 回収27名（参加者28名・回収率96.4%）

事業全体を通して	満足：23名	85.2%	やや不満：0名	0%
	やや満足：4名	14.8%	やや不満：0名	0%

(2)成果と課題

- 「焚き火」で、木と地球温暖化を絡めてカーボンニュートラルについて子どもたちに理解させ、「ログハウス宿泊体験」で、材料としての木の有用性に気付かせるという一連の活動は、小学4年生・5年生には難易度の高い活動ではあったが、多くの子どもたちは理解してくれたことが大きな成果であった。今後、研修支援事業で、焚火やキャンプファイヤーの活動の中で15分程度、組み込むことが出来るよう検討していきたい。
- 「香料スプレーづくり」の中で、香料を抽出する3種類の木を用いたリースづくりを取り入れたところ、子どもたちが楽しそうに一生懸命に取り組み、アンケートの感想も好評であったことも大きな成果であった。そのリースづくりを指導したのは、今回「香料スプレーづくり」に初めて来た講師であり、地域の新たな人的資源の発掘と、その方の働きかけで、今までの活動に新たなエッセンスが加わったということも大きな成果である。
- 「森の多様性を知るプログラム」として“朝の散歩”と“夜の動物映像の鑑賞”、「材料としての木を知るプログラム」としての“木のハガキづくり”を新たに試行した。どの活動も、子どもたちにとって新鮮な活動であったようで、多くの驚きや気付きがあった。新たな活動として利用できそうな点も今回の成果であった。
- 「焚き火」については、通常の焚火やキャンプファイヤーより、真面目な話をする場面が多かったためか、子どもたちの中には飽きてしまい、焚き火の輪の中から外れたり、話を聞かなかつたりする子どもも見られた点が課題である。
- 3年間で研修支援への普及を目標とした「森の環境教育」の活動を色々と開発したが、これを基に、今後、4.5時間から6時間のプログラムとして研修支援事業の中で提供する必要がある。プログラムとしてどのようにまとめ、研修支援の中でどのように広げていくかが大きな課題である。